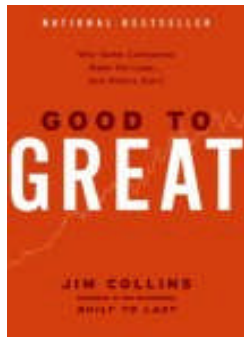


無意味感・閉塞感から脱却し
日本が世界に貢献するために

情熱を注ぐ対象を見つける 対話の会



目指すのは第5水準のリーダーになること

卓越を目指して、不屈の精神で着実に実行しつつ
優越感や劣等感から解放され相手の立場に立てる謙虚さをもち
もっとも重要なことに集中し成果をあげる環境をつくる人

社会問題の背景にある問題の本質は何だろうか？

- いじめ、引きこもり
- 学級崩壊
- ニート
- 若手のうつ
- 環境問題(地球温暖化)
- ワーキングプア
- 親殺し、育児放棄
- 無差別策人
- 格差社会
- 熟年離婚、主人在宅ストレス症候群
- テロ、地域紛争、大量虐殺、戦争

その本質は

無意味感

「情熱を注ぐ対象」がない

- 情報の増加と生産性の向上により、選択肢が増えた
- わずか1世代前は、戦争があり、食べるものも満足にはなく、情熱を注ぐ対象は大前提として、「国を守ること、食べること」で一致していた。ところが、おそらくここ10~20年ほどで、突然、選択の自由が出現してしまった
- とはいえ、有史来、自分の情熱を注ぐ対象を決めることができたのは、ごくごく、限られた人だけ。だから、パラダイム(常識×習慣)としても、方法的にも、思想的にも極めて未整備
- この根源的な「自由」があるのに活かさないことにより、情熱をもって取り組んでいる人を妬んだり、劣等感を感じ、無視したり、足を引っ張ったり、妨害をしたりしている
- 無意味感を埋めるために、わかりやすい「金」という本来は手段に過ぎないもの、あるいは、地位や権力、外的評価など・・・がそんなもので優越感を感じたとしても「無意味感」が埋まることはなく、余計にむなしさを感じてしまっている
- また、所属の安心感と意味を与えていた、人とのつながりもすっかり希薄になっている

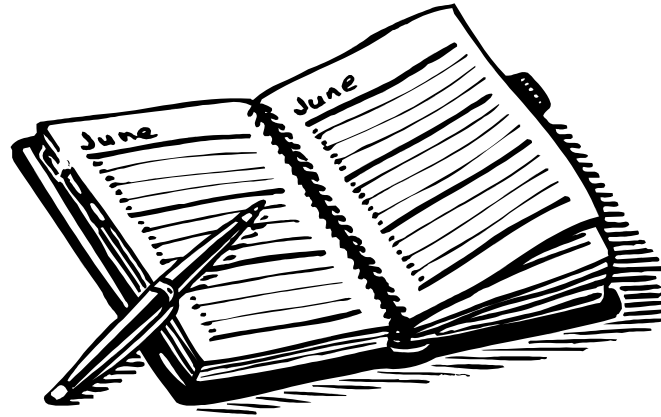
意味のある仕事を求める気持ち

自分が意味を感じない対象に取り組むこと
くらい苦しいことがあるだろうか？

- 自分が情熱をもてる仕事、「なぜ偉大さを追及するのか」という問いに、そんなことは自明ではないかと思える仕事を探した。心から好きなことをしており、その目的を深く信じているのであれば、偉大さを目指さないことは想像すら難しい
 - 意味のある人生を送ることができなければ、偉大な人生にはならない
 - 意味のある仕事をしていなければ、意味のある人生にするのは極めて難しい
 - 意味のある仕事をしていれば、本当に素晴らしく、社会にも寄与できることに関与しているとの認識から、めったにない心の安らぎを得られるかもしれない
 - どんな満足も勝る最大の満足～この地上ですごく短い時間を有意義なものにしているという満足、そして、重要なことを成し遂げられるという満足～すら得られるかもしれない
- 情熱を傾ける対象を見つけなければ
 - 自分が嫌な人間になる
 - 卓越した人、成果をあげている人に対して妬ましく、劣等感を感じてしまう。その劣等感を解消するために、他の人を見下し、時にはいじめて優越感を味わおうとする
 - 忙しいわりに充実感がない
 - 優先順位、劣後順位の基準がないために、集中できず、いろいろなことに手を出して、どれもうまくいかないという状況になる。あるいは、結果が出ていたとしても、どこか空虚な感じが残る

GTG 331p

Jobsの教訓: 明日死ぬという修行＝手帳を開いてみよう



自分が意味を感じない対象に取り組むこと
くらい苦しいことがあるだろうか？

あなたの仕事に貢献せず、ただ時間を浪費
させるようなことを、私は何かしているか？

- 「もし今日が自分の人生最後の日だとしたら、今日やろうとしていることを私は本当にやりたいたらうか？」
 - 自分がそう遠くないうちに死ぬと意識しておくことは、私がこれまで重大な選択をする際の最も重要なツールでした。ほとんどのものごと、外部からの期待、自分のプライド、屈辱や挫折に対する恐怖、こういったもののすべては死に臨んでは消えてなくなり、真に重要なことだけが残るからです。自分も死に向かっているという自覚は、私の知る限り、何かを失ってしまうかもしれないという思考の落とし穴を避けるための最善の策です。あなた方はすでに丸裸です。自分の心に 従わない理由はありません
- 時間をどのように使っているか
 - 時間を記録し、管理し、まとめるという3つの段階が、成果をあげるための時間管理の基本となる
 - あなたの仕事について、何を知らなければならないか
 - この組織について、何か気がついたことはないか
 - われわれが手をつけていない機会は、どこにあるか
- 仕事の整理をする
 - 時間を浪費する非生産的な活動を見つけ、排除していくこと
 1. 「まったくしなかったならば、何が起るか」
 2. 「他の人でもやれることは何か」
 3. 「あなたの仕事に貢献せず、ただ時間を浪費させるようなことを、私は何かしているか」と協力者に聞く
- 核心の大家
 - ハリー・ホプキンス～一日おきに数時間しか働けなかったが、戦時中のワシントンにおいて、誰よりも多くの仕事を成し遂げた

Steve Jobs

時間こそ真に普遍的な制約条件である プロフェッショナルの条件119p

情熱をもって取り組める対象の3要件

もっとも重要なことに集中し成果をあげる環境をつくる

その仕事で十分な報酬が得られる(これをやってこんなにお金が入ってくるなんて、夢のようではないかと思える)

仕事の仕方

成果を測る指標

- 理解の仕方と学び方: 読む人か、聞く人か
- 人と組むか、ひとりでやるか
- 仕事の環境として、緊張感や不安があった方が仕事ができるか、安定した環境の方が仕事ができるか
- 大きな組織で歯車として働いた方が仕事ができるか、小さな組織の方が仕事ができるか
- 仕事上の役割として、意思決定者と補助役のどちらの方が成果をあげられるか

3つが重なる仕事なら情熱を傾けられる

価値観

情熱をもって
取り組める

自分の仕事に情熱をもっており、好きでたまらず仕事をしていること自体が楽しい(毎朝、目が覚めて仕事に出かけるのが楽しく、自分の仕事に誇りをもっている)

自らの強み

世界一になれる領域

もって生まれた能力にぴったりの仕事であり、その能力を活かして、おそらくは世界でも有数の能力を発揮できるようになる(自分はこの仕事をするために生まれてきたのだと思える)

卓越を目指して、不屈の精神で着実に実行しつつ

優越感や劣等感から解放され相手の立場に立てる謙虚さをもち

- **自らの価値観、強み、仕事の仕方を知り、機会をつかむよう用意をした者だけがところをうることができる。**
 - なぜならば、自らの得るべきところを知ることによって、普通の人、単に有能なだけの働き手が卓越した仕事を行うようになるからである
 - 最高のキャリアは、あらかじめ計画して手にできるものではない

集中できる環境になっているか？



集中とは時間と仕事について、自ら意思決定する勇氣
「真に意味のあることは何か？」
「最も重要なことは何か？」

- コンセプトが明確な人は、必要なものを残し、不要なものは捨てられるので、机の上が整理されている
- 提出物は、すぐに処理するので、遅れることがない
- 重要なことから取り組んで、目標設定をしているので、帰るのも早い
- 気持ちに余裕があるので、挨拶も気持ち良く、他の人の些細な変化にも気づく
- 集中して仕事を仕上げるので、仕事が早い

集中するための原則

1. もはや生産的でなくなった過去のものを捨てること
2. 成果をあげる人は、もっとも重要なことから始め、しかも、一度に一つのことしかしない

優先順位・劣後順位において重要なものは分析ではなく勇氣

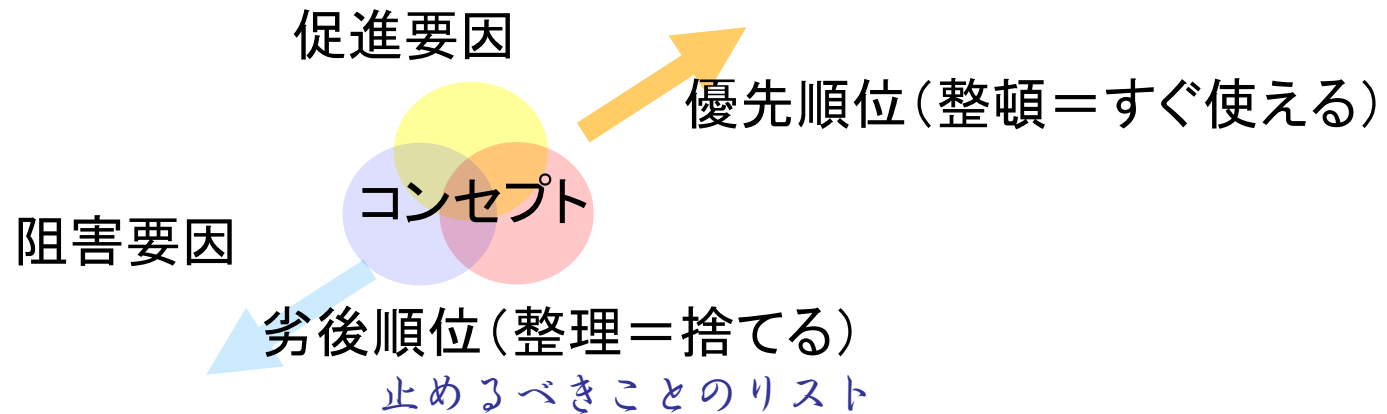
- 「真に意味あることは何か」「もっとも重要なことは何か」という観点から、時間と仕事について、自ら意思決定する勇氣のこと
- 1. 過去ではなく未来を選ぶこと
- 2. 問題ではなく機会に焦点を当てる
 - 問題の解決、すなわち昨日の均衡の回復などよりも、機会を成果に変えることの方がはるかに生産的である
- 3. 横並びではなく自らの方向性をもつ
- 4. 無難で容易なものではなく、変革をもたらすものに焦点を合わせる

Jobsの教訓と重なる

プロフェッショナルの条件

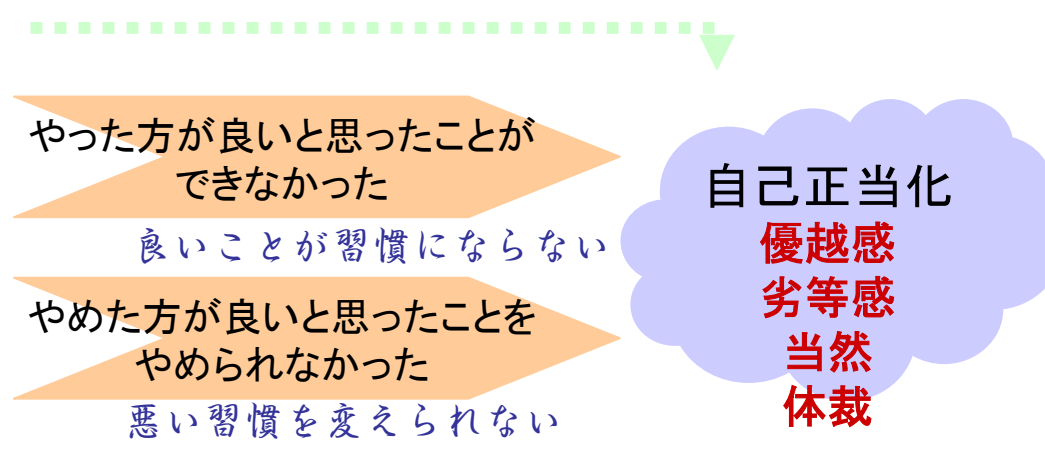
コンセプトを明確にして、シンプルになる

環境整備をして、すぐ行動できるようにしておく
阻害要因を減らし、促進要因を増やす



- 思ったことを即行動にできないと自己正当化が始まる
 - 自分がやった方が良かったことを即実行できるようになることは、非常に重要な要素
 - コンセプトが明確でなければ、優先順位も劣後順位もつかない

人を人としてみる



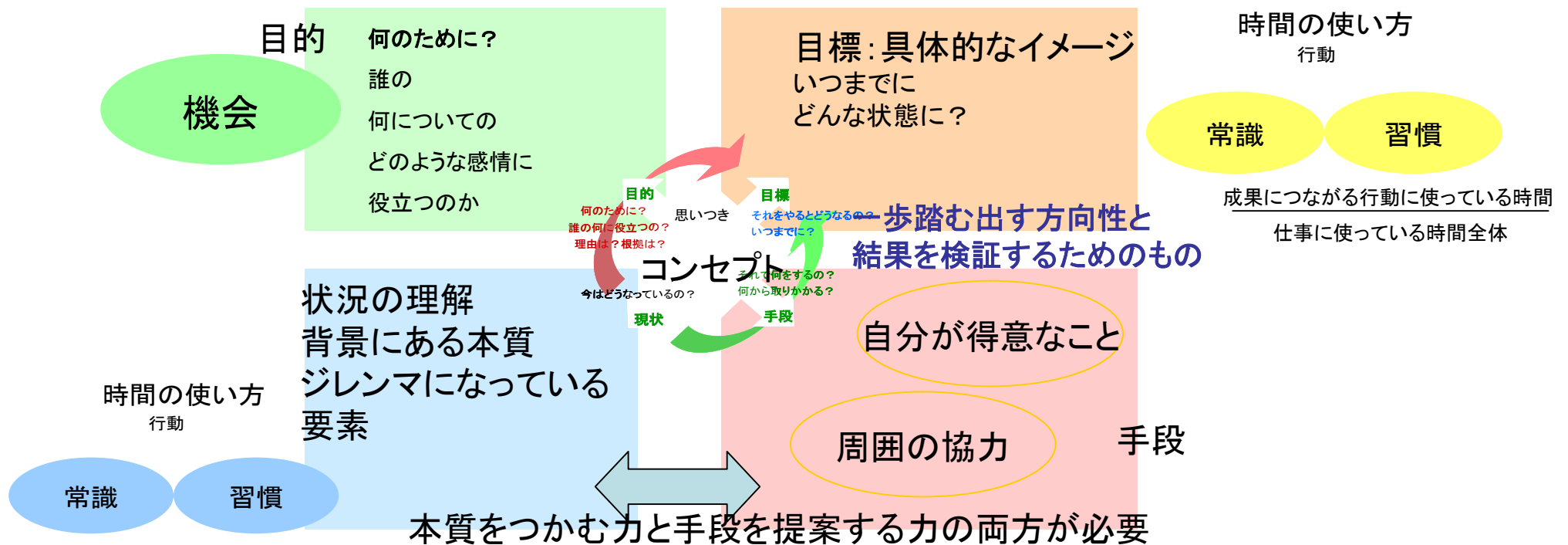
人を物としてみる

人と協力しあえない
力づくか
金でつるか
操作しようとする

自らの強みを知る＞フィードバック分析：仮説-検証

- 何か重要な決定をする際に、その期待する結果を書きとめておき、9ヵ月後、1年後に、その期待と実際の結果を見比べる
 - 自分は何がよく行えるか、何が強みか
 - 強みを発揮するうえで、邪魔になっていること
 - 何を学ばなければならないか、どのような癖を直さなければ
 - どのような能力が欠けているか、何がよくできないか→行おうとしてはならないこと
- フィードバック分析から明らかになる行うべきこと
 1. 明らかになった強みに集中すること。成果を生み出すものに集中すること
 2. その強みをさらに伸ばすこと
 3. 無知の元凶ともいうべき知的な傲慢を正すこと
 - 一つのことに優れた人たちは他の分野を馬鹿にする。他の知識などなくとも十分とする。ところが、フィードバック分析は、仕事の失敗が、知っているべきことを知らなかったためであり、専門知識以外の知識を軽視していたためであったことを明らかにする
 4. 自らの悪癖を改めること
 5. 人への対し方が悪くて、みすみす成果をあげられなくすることを避けること
 6. 行っても成果のあがらないことは行わないこと
 7. 努力しても並にしかなれない分野に無駄な時間を使わないこと
 - 無能を並みの水準にするには、一流を超一流にするよりもはるかに多くのエネルギーを必要とする

企画のポイント: 本質を知ること、相手の立場に立つこと、強みを発揮すること、表現して検証すること



- 仮説-検証-発信-仕組み(かけはし) = プロデュース力がなければ、現状を憂いて不満を言ったり、批判はできても、人びとの力を結集して、現実を変えてゆくということはありません。多くの社会問題が顕在化している今日、社会はプロデュース力のある人才の参画を必要としています
- 問題状況は複数の要素が複雑に絡み、原因が特定できることはまれで、あちらを立てれば、こちらが立たずのジレンマを含んでいることも少なくありません。状況の中に問題の本質を発見し、より良い状況に変える企画を立て、周囲の協力を得ながら遂行できる人は、どんな状況の中でも楽しい挑戦の機会を創り出し成長できる人であるだけでなく、深い人間理解のもとに他者にも成長の機会を提供し、現状を変えてゆくリーダーでもあります

対話の方法

対話の三原則

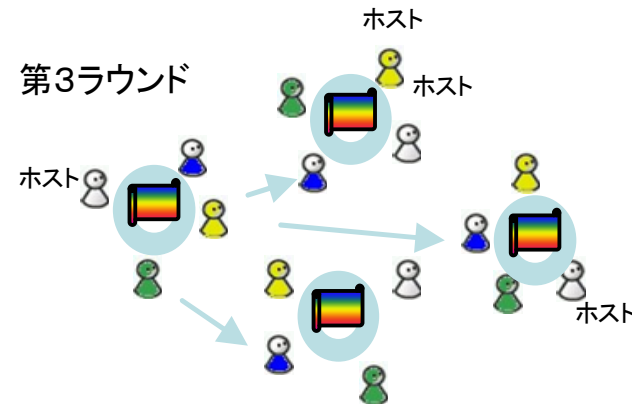
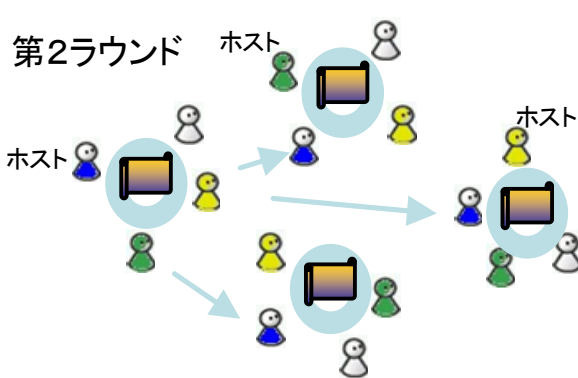
カフェの気楽な会話

対等・圧力がかからない

共感をもって聞く

心の底にある思い込みを明らかにする

第1ラウンド



- ✓テーブルの上の模造紙に各自が感じたことを言葉や絵で描いてゆく
- ✓前の人の字や絵が目の前にあって、それに足してゆく感じで自由に描いてゆく
- ✓誰かが話しているときには、議論したり、割り込んだり、別の話をしたりせず、しっかり聞く

1. 数分間で全員が話し終わったら、そのテーブルのホストを決めて、ホスト以外はいっせいに移動する
2. 移動したらホストが第1ラウンドの会話の内容を数分で共有しさらに会話を深める
3. 終わったら、また別のホストを決めて、全員移動
4. それを何ラウンドか繰り返して、会話の内容を味わい、プロセスを深めてい

一般人の判断の王道は対話なのである

- それでも民主主義の重要な課題について、人々はたいてい健全で思慮深い判断を下す。誤った情報しか持たない人々が健全な判断を下せるなら、意思決定において情報と分析以外に何らかの力が働いているに違いない
- 経験上、大衆が事実を分析にして結論に達するなどということは、めったにない。一般市民は専門家とは違う方法で物事を決めるのだ。
- 専門家は情報、経験、分析をもとに判断するが、一般市民はふつう、たいした情報を持っておらず、分析などしないし、ほとんどの問題を直接に経験することもない
- 私が経験から学んだのは、人は対話やディスカッションなど他人との相互作用を通じて物事を判断するということだ。人は他人の考えを自分の考えと比較し、自分なりの解釈を披露しあい、自分で納得できる観点からだけ他人の意見を取り入れる。つまり、何よりも自分の印象と価値観を重視している
- **共通の目的を持った人々が対話をすれば**、各参加者は自分の視点からだけ考えていたのでは不可能だった深みにまで達することができる。対話は、人生の目標と価値について、参加者の間に共通の見解を形成する
- 話をするときによくある、「私はこう思うのだが・・・」という発言は、それ自体は単なる個人的な見解に過ぎない。しかし、いったん対話が始まって、みんなが影響しあって自分の見解を変えていくと、それぞれの「私が思うこと」は他人の見解を反映して鍛えられた豊かなものになる。
- 「私が思うこと」は他人の見解の寄せ集め以上の何かになるのだ。さまざまな見解と経験によって検証され、問題が明らかになる